

長泉町・さわやかハイキング報告書

|  |  |       |       |
|--|--|-------|-------|
| 通算山行NO   | NO. 87   | 報告者   | 井上弘二郎 |
| 年月日  | 2010年6月12日(日・晴)  | 2万5千円 | 高妻山   |
| 山名   | 戸隠連峰・高妻山(2353m・日本百名山)＝蟻の戸渡りコース   |       |       |
| 体力度＝4・やや厳しい 技術度＝4・やや難しい 藪漕＝なし 道標＝ある トイレ＝なし<br>展望度＝◎ 三角点名＝高妻山 等級＝二等 |  |       |       |
| <b>高妻山、大いなる冒険</b>  |  |       |       |
| コースとタイム  | 長泉 3:00—8:25 戸隠神社スタート—12:10 不動小屋—13:58 六弥勒(分岐) 16:03 高妻山頂上(16:10まで)—17:45 六弥勒尾根分岐—19:55 牧場入口 |       |       |
| 単純<br>標高差  | 上り 戸隠奥社入口約1215m～高妻山約2353m＝1138m<br>下り 高妻山約2353m～牧場入口約1200m＝1153m                             |       |       |
| 参加者  | A隊：CL 井上弘二郎、永尾 広、河野光江、鈴木 仁 合計＝4名<br>(バス24人乗り・ドリーム観光 谷川ドライバー)                                 |       |       |

朝(夜?) 3:15、長泉町南一色の竹沢種苗店前でバスに乗り込む。座席に余裕があり、荷物を置くスペースがたっぷりあり、とても楽チンである。昨夜も早くから寝たことだし、バスで数時間寝れば体力はバッチリだと思っていた。事前連絡で、蟻の戸渡りコースは約10時間と知り、挑戦してみようという気を起こさせた。バスの中で募集があり、我こそはと4人が名乗り出た。

結果は、4人共無事にやり遂げたが、これまでにないほど疲れたので、どれほどの累積標高差があったのか検証したくなった。各時刻は河野さんの詳細な記録による。本日の記録係を仰せつかった私が時刻を手帳に記録したのは出発時だけで、後は手帳を出す元気はなかった。今回の記録も長いですがしばしお付き合いください。(カッコ内はその場所の標高と、その地点までの登りと下りの累計を表す。)

8:25 戸隠神社スタート(標高1215m) これからどんなことが起こるか想像すらできず、観光気分で参道を歩く。

8:40 随神門を通過。(標高1241m、登り26m) 随神門は写真で見るとより大きく立派な印象である。随神門から奥社まで700mの参道の両側には百数本の杉の大木が並び見事である。樹齢400年を超える見たことのない幹の太さだ。野鳥をカメラに収めようとする人たちが、大砲のような望遠レンズで構えていた。

とにかく無事帰還を・・・(笑)



8:55 戸隠奥社の社務所を左に入り、これより登山道である。(標高 1330m、登り 26+89=115m) いきなりの急登でとたんに苦しくなった。

9:55 西窟(標高 1650m、登り 115+320=435m) 右側の岩壁上方 10m くらいに祠らしきものが見える。道はなく、そこへ行くための鎖がぶら下がっている。時間がないので、永尾さんと仁さんが鎖にを使って登っているポーズの写真を撮って先を急ぐ。垂直壁に入る前に、自称高齢者の 10 人くらいの団体がハーネスを装着していた。垂直壁を登る。びびる。

10:20 蟻の戸渡りスタート。ここまで 1 時間 55 分。なんだこれは。これでは落ちるではないか。特に左側は足元から下には何もないように見える。地上の木々の緑色が自分のいる場所の茶色と全く異なる色のため、それが高度感を演出し、吸い込まれそうになる。見ないようにしよう。またいでいるリッジの幅は徐々に狭くなり、最後は幅 10cm ぐらい。どんどん不安になる。右下には迂回用の鎖が見える。迂回コースを選ぶべきだったと後悔するも、もう前に行くしかないので、ナイフリッジをまたいだまま、ずりずりと前進する。永尾さんはやはり平気なようで、最後のほうは立ち上がってひよいひよいと歩いていってしまった。信じられない。無線機で、全員無事渡りきったことを B 隊へ報告する。

10:40 八方睨(標高 1900m、登り 435+250=685m)

八方睨から見る高妻山は遠く、八ヶ岳の赤岳を思わせる台形をしている。B 隊の後藤さんから無線が入り、高妻山が尖って見え、カッコいいとのこと。見る方向で形も印象も全く違うものだと思った。しかし、高妻山がどこまでも遠い。とてもたどり着くことができるような場所には思えない。



高妻山(妻はやっぱり高く尊敬??!!)



白根葵

10:50 戸隠山(標高 1904m、登り 685+40=725m、下り 30m)

途中出会った他の登山者は、皆一不動から下るらしい。あたりまえか。

九頭竜山をいつの間にか通過。(標高 1882m、登り 725+110=825m、下り 30+130=160m)

道中ずっと、小さな羽虫が汗に集まり、顔の周りをぶんぶん飛んでいる。目、耳、口に虫が飛び込んでくるので、いらいらする。

12:10 一不動小屋。ここまで 3 時間 45 分。(標高 1747m、登り 825+100=925m、下り 160+230=390m)

~12:50 昼ごはん休憩。外にいると羽虫に囲まれるので小屋に入る。第 1 のエスケープル

ートを前にして、下る相談はない。少しでも荷物を軽くしたいので、持ってきたぬるいビールを1本飲む。20分の休みで再出発。

13:00 二釈迦、13:10 三文殊、13:28 四普賢、13:45 五地藏、13:52 五地藏山頂上

一不動からは数十メートルのアップダウンの繰り返しだがこたえた。登りで地獄を味わい、下りで天国を味わう。コルに着くたび冷風が吹きぬけ、一瞬の極楽である。が、次に来るのが登り地獄だ。躁と鬱を短時間に繰り返しているようで気分的につらい。誰もエスケープルートへ行こうと発言しない。誰か言ってくれれば、素直に従うのに。

13:58 六弥勒（分岐）（標高 1998m、登り 925+290=1215m、下り 390+60=450m）

道は六弥勒で北へ向かっていたのが西向きに変わる。すると高妻山が正面方向に見え、尖った山容を示す。ここまできてしまうと、何も言わずに体は登りを選んだ。しかし、目の前の高妻山の頂上ははるかかなたに見える。

14:03 七観音、14:15 途中、雪溪手前で引き返したB隊の峰田さんと西原さんと出会う。

手持ちの水が切れた。永尾さんからスポーツドリンクを半分分けてもらう。ここままで、持ってきた2.5リットルのスポーツドリンクと缶ビールを消費し終わってしまった。2時間当たり500ccでは汗っかきの私では不足だった。



あぶないオジさんとギリギリガール

まだまだ行くぞ～、オ～！！



仁さんのクラシック・ピッケル

ただ木は折れやすい

途中、雪があると、永尾さんと仁さんは瞬間的に子供に戻り、雪を投げ合っている。私は雪玉を帽子の下に入れ頭を冷やした。何度も雪を食べたい衝動にかられたが我慢した。

14:35 八薬師、14:43 九勢至

高妻山の最低コルを過ぎ、下山してくるB隊とすれ違った。元気は残っていないが、仲間会えば、カラ元気もでてくる。雪溪での注意事項を受け、気を引き締めた。ピッケルを持っていなかった永尾さんと河野さんが、B隊より借りた。ラストの登りは310mあり、その間に雪溪（30mくらいだろうか）に登らなくてはならない。



雪溪が現れた。私は雪が怖くない。よっぽど垂直壁や蟻の戸渡りのほうが全くダメ。河野さんはその反対。永尾さん、仁さんはどっちも平気。3人のナイトに守られ1人のお姫様は着実に登っていった。河野さんにとっては長い雪溪も、私にとってはあっという間で、お楽しみが終わってしまった。また、土の上を歩かねばならない。

シラネアオイの淡い紫がとてもきれいだ。時折、群生しているのを見ると心が和む。

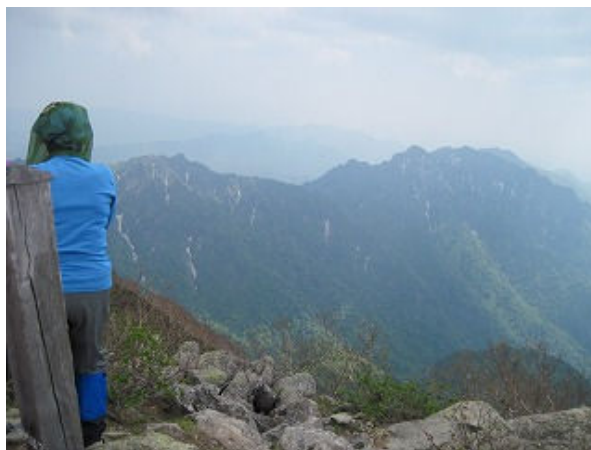
急な登りが終わると緩い傾斜となる。頂上はもうすぐだ。ここで、荷物を道端に放り、無線機だけを持って頂上を目指す。 15:55 十阿弥陀

16:03 高妻山頂上。ここまで7時間38分。(標高2352m、登り1215+510=1725m、下り450+150=600m) 頂上に着くと、4人で握手をした。いやー、やり遂げました。既に時刻は4時をまわり、夕暮れの様相を示している。この時間帯で山の頂上にいることはあまりない。隣の乙妻山がとても美しく見える。しかし、ゆっくりしてられないのだ。できれば明るい内に地上へ到着したい。下りの雪溪も油断ならない。膝はわらっているし、4人とも持ってきた水が終わろうとしている。問題は多い。



問題の雪溪

高妻山から戸隠連峰



16:10 下山開始。

16:20 荷物デポ場。

16:30~16:50 雪溪も無事通過。

17:07 九勢至、17:18 八薬師、17:37 七観音、

17:45 六弥勒尾根分岐。ここまで9時間20分。(標高1998m、登り1725+150=1875m 終了、下り600+510=1110m)

数c c ずつ水筒の水を飲み、下る、下る、下る。とにかく下る。ひたすら下る。6時をまわり、とてもおなかがすく。パンなどの食料はたくさんあるが、水分なしでは食べられず、我慢。冷たいきれいな空気をいっぱい吸って気を紛らした。途中、仁さんが足を捻挫した。永尾さんが湿布を出し、河野さんがストックを貸して、応急処置を行う。下りる速さはあまり変わらないが痛そう。だんだん暗くなり、あと少しというところでヘッドランプを取り出した。やがて、水の流れる音が聞こえ、ほっとする。

19:20 沢に出会う。沢を渡るとき、思いっきり顔を洗い、うがいをする。生き返る。牧場に出るが、右か左か分からず、バスの運転手と電話連絡を取り確認した。

19:35 一不動登山口（標高 1230m、下り 1110+768=1878m）

牧場の中を歩いていると、左手の建物の中でピカピカ光るものが見えた。自動販売機を発見。入口の鍵は掛かっていない。ラッキー。真っ暗な中で飲み物を買って、飲み干す。私は 500cc を 2 本一気に飲みました。かなり元気になった。

19:55 牧場入口。11 時間 30 分。（標高 1180m、下り 1878+50=1928m 終了）

駐車場ではバス運転手の谷川さんがバスの外で待っていてくれ、「お帰りなさい。」の言葉がうれしかった。

宿に着くと、玄関が開いていて、後藤さん以下 B 隊全員が出迎えてくれた。感動の 1 シーンだった。風呂に入り、食卓につくが、ほとんど食べられない。やたらビールとワインばかり飲んだ。増田さんが差し入れてくれたドイツ白ワインが格別うまかった。

## 【まとめ】

累計標高差：（登り）1875m、（下り）1928m

歩行時間：（スタート）8:25、（ゴール）19:55、合計 11 時間 30 分

計画書の単純標高差約 1000m を見て安易に考えていたが、累計すると約 2 倍だった。こりゃ疲れるはずだ。

河野さん、永尾さん、仁さん、お疲れ様でした。後藤さん、B 隊のみなさん、サポートありがとうございました。ご心配をおかけしました。仲間がいてくれたから達成できたのだとつくづく思う。1 人でこれほどの苦しみに耐えられるとは思えない。お互いに、得意な部分で助け合い、励まし合い、振り返ってみればすばらしいチームワークでした。他ではできないすばらしい体験をしました。（次の剣ではみんなでテント泊に挑戦だ。・・・ウソです。）

翌日の午前中に隣の黒姫山に登り、その下りで高妻山のガスが晴れ、全容を見ることができた。これまた感動ひとしおでした。

## 【過去の実績との比較】

裾野麗峰山の会 = 1997 年 6 月の記録（六弥勒からは想定時間）

起床 3 : 00 - 宿発 3 : 45 - 車回送後出発 4 : 10 - 随神門 4 : 25 - 百間長屋 5 : 30 - 蟻の戸渡り 6 : 55 (2h45m) - 八方睨 7 : 02 - 九頭龍山 7 : 55 - 不動小屋 8 : 40 (4h30m) - 五地藏山 9 : 30 - 高妻山 11 : 30 (7h20m) ~ 12 : 00 - 六弥勒 13 : 20 (9h10m) - 牧場（ここからは想定時間） 15 : 20

\* これくらいで歩ければ実現可能

（過去の実績と比較して、最後の六弥勒到着時が 10 分しか遅れていないのには驚いた。我々もなかなかやるものだ。）

## 【メモ】

参加費 バス代 = 14000 -、民宿代 = 6500、（各自支払）弁当 = 500 -

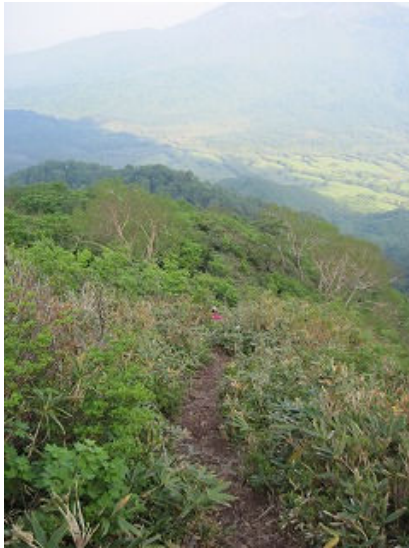
長野県長野市戸隠 3528 民宿「きのした」 026-254~2186 F・3190



朝、牧場に行くB隊



一不動避難小屋に上る途中の滝



弥勒尾根を下る

燕万年青（ツバメオモト）



牧場でB隊は軟派（難破）しちゃいました（A隊ゴメン）



民宿にてMさん差し入れの皇室御用達の  
赤・白ワインをいただく



A隊写真集（仁さん撮影）



おっ〜と、で〜じょぶでっか！！

高妻山がカッコいい〜！！



あぶないオジさんと  
ギリギリガールは  
遂にやりました  
全員登頂です  
オメデト〜ウ！！

